

今年も早めのウナギ 鳩山会館にも足を伸ばす

企画委員会

「肝吸い付きうな重」を今年も賞味しました。やっぱりうまかった、満足！満足！口福でした。その後、恒例の腹ごなし散策、今回は鳩山会館を訪れました。こちらではアジサイとバラが咲いていて、眼福でした。

期 間：2023年6月14日（水）

費 用：3,200円（うな重）飲物別自己負担
500円（鳩山会館入館料）

交通費：210円 都バス（上富士前→音羽1丁目）

集 合：午前11時45分 JR駒込駅北口改札口

食事処：割烹「都鳥」北区田端銀座

見 学：鳩山会館（音羽）バラ庭園

休 憩：関口フランスパン本店（目白坂下）

解 散：関口フランスパン本店にて 午後3時半頃

リーダー：会員Y

参加者：17名

順 路 JR駒込駅北口改札→田端銀座前→
ウナギ都鳥→うな重 賞味→都バス上富士前→
音羽1丁目下車→鳩山会館→建物と庭園鑑賞→
関口フランスパン本店→解散

都鳥 本命うな重

“今年もうまかった”「肝吸い付きうな重」。お重に2枚のウナギが折り重なっていました。身は柔らかく、皮目にしっかりと焼いた焼の香りがあり、やや甘いたれで、山椒の香りを併せて鰻とご飯の競演を楽しみました。肝吸いの澄ましがうま味を増していました。

このお店とはリーダーが親しく、借り切りの扱いでした。WSC会員のみで和気あいの楽しい楽しい時を過ごすことができました。いろいろと配慮していただいた、店主に感謝です。



6月の季語の鰻を、文字通り6月に腹福と堪能しました。このお店のウナギの出身地は鹿児島だそうです。浜松のウナギ、名古屋のウナギ、うな井発祥の地牛久沼のウナギとも、焼き方、蒸し方、味の違いがあり、ウナギを極めるのは大変そうです。



柔らかいウナギ、2枚重なって鎮座



ウナギ賞味後の記念写真 満足！満足！

鳩山会館見学の記

音羽御殿ともいわれる鳩山会館は、音羽1丁目にありました。不動産屋さん用語のバス停近です。2本の石柱が両側にあり、ここが道路からの入り口で、高台にある建物の玄関へ少々きつい勾配で二曲がりしてつながります。途中に咲くアジサイを眺めながら、ゆるりと登りました。



鳩山会館の入り口 ここから玄関へはきつい登り

敷地2千坪に建つ洋館で、英国風と感じました。庭園のバラが楚々と咲き、季節の歓びを演出していました。二階建ての建物には、応接室、書斎、執務室、そしてサンルームがあり当時の流行の建築様式でした。豪華なのは、ステンドグラス。階段の踊り場にあり、五重塔を左下に配した和風の趣、上部には鳩の舞、全体の印象は大正浪漫です。



鳩山会館の庭を散策する会員の姿が見える

目を引いたのは、食堂の食器棚にあった十一代柿右衛門のカップ&ソーサーです。黒褐色を基調とした室内に、柿右衛門の赤が、明るさを放っていました。

建物の屋根に並んだ装飾のミミズクは平和の象徴で、鳩山家の理念を表しているそうです。ところで、先の第二次大戦後、この会館は戦前戦後に鳩山家にはいろいろ困難があり抵当に入っていたそうです。つまり、建物存続の危機にあったわけです。昭和20年代の終わり頃、後に首相になる佐藤栄作氏が資金を調達して救い出したそうです。半藤一利著作『昭和史戦後編』に、このような秘話が載っていました。

庭園のバラは、季節的に咲き誇るとまではいきませんが、しっかりと潤いを魅せていました。



梅雨の雨に濡れた花びらがなんとも柔らかい

建物の玄関脇にある庭園入口の番人は、狸さんでした。玄関への来客も見守っていたようですが、政治家の自宅に狸の像とは、なんともいやはや・・・



関口フランスパン本店

創業は19世紀末、明治憲法発布の頃の創業の老舗です。カフェを併設したパン屋さんで、コーヒーや飲物を楽しみ、いろいろなパンを求めました。目白坂下の木立を背にした大ガラスの洒落れた店で、いかにも老舗という感じの店員さんの対応が好感度抜群でした。



参加しました

(千葉県船橋市)

久しぶりの駒込「都鳥」での昼食会は、Yさんの図らいで「貸切」開催となり楽しい時間でした。現地では急な雨となり長めのビニール傘が、相合い傘で役立ちました。ボリュームたっぷりの鰻重と一番搾りをお腹に納めて、YAさんからの差し入れも含め大変満足いたしました。



都バスで移動した後、腹いっぱい重い身体での鳩山会館への坂の上りは、スイスイとは行かなかったものの登り切り、一息ついたら狸の置物が迎えてくれました。鳩山家の建物は洋館で築百年ほどになるようですが、メンテナンスが行き届き地震国でも立派に維持されていました。入場料を取るのとは仕方ないですね。

天候が良かったら、神田川沿いをもう少し歩きたかったですが、フランスパン関口本店で一息ついた後、江戸川橋駅から地下鉄で帰路につきました。合計15千歩余りの遠足でした。ありがとうございました。

(静岡市駿河区)

梅雨模様の東京、完璧とは言えずともコロナ禍から解放され久しぶりの面会に心も弾み、話題も賑やかに談笑しながら徒歩で「都鳥」へ向かった。昨年と同じく、柔らかくふっくらと焼き上げた鰻、秘伝のたれは絶妙で食欲と心の満足感をたっぷりと満たしてくれた。

食事の後は、都バスで音羽通りへ。鳩山会館とバラ園は平地にあると思いきや、何と高層マンション群に囲まれた都会の森に包まれた丘の上に鎮座していた。雨に濡れた紫陽花を眺めながら曲がりくねった坂道を辿ること4~5分、エントランス前にたどり着いたときには息を切らしていた。

鳩山会館は音羽御殿と呼ばれ、戦後政治の舞台ともなったこの鳩山一郎邸は、石垣もあり一国一城の城塞といった感じの洋館だった。築百年になるという洋館は、スタンドグラスが印象的な建造物だった。バラ園と緑の芝生のコントラストも素晴らしかった。



和風づくりの大磯の吉田茂邸や、首相退任後に過ぎた御殿場にある岸信介邸とは趣が異なり、それぞれの個性と趣向の相違を感じた。